

エルムの孤軍奮闘記で  
すわッ！！！！

白金古屋

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

サンラクがいない間、エルムは、どうしているのか。って言う二次創作です。色々駄文失礼します。

# 目次

変態さんですわ？

1



変態さんですわ？

「キユキユー。キユキユキユキユー！」

「キユキユ・・・キユキユツキユ」

「んむ？」

アタシはエムルですわ！今、おとーちや・・カシラに呼ばれて、兎御殿に来てるですわ！けど、なんだか皆が騒がしい気がしますわ。

「あ、エムルねえ！」

「エヌハ」

お首を傾げていたら、エヌハに声をかけられましたわ。エヌハは、アタシの妹だけでもシークルウお兄ちゃんの影響で、開拓者さん並に色んなところに行ってるから兎御殿で会うのは久しぶりなのですわ。

「エヌハが兎御殿にいるなんて珍しいですわ。皆も騒がしいですし、なんかあったですわ?。」

「あれ? エムルねえ聞いてない? なんでも、あの夜の帝王に認められた開拓者さんが現れたんだって! 面白そうだから、帰って来ちゃった!。」

「へえですわ」

なるほど、夜の帝王に認められたという事は、かの帝王に一個体として認められたという事。それは、確かにヴォーパル魂たぎるお話ではありませんわ。

でも、神代の加護を持つ開拓者さん達の中には、開拓者さん特有の粘り強さで夜の帝王に認められた方も何人かいるですわ。今の兎御殿のざわめきには、少し足りない気がしますわ。

「ふふん。エムルねえ不思議そうな顔してる! なんでも、その開拓者さん。ものすごいヴォーパル魂溢れてるって噂なの!。」

「ほうほうですわ」

「かなり弱い肉体みたいなんだけど、夜の帝王相手に一步も引かずに!。」

「ほうほうですわ」

「夜の帝王との戦いで一撃も食らわずに何百回も致命の一撃を当て続け！」

「ほうほうですわ」

「なんと！夜の帝王の呪いを二箇所も貫つたんだって！」

「ほうほうですわ！」

なるほど！それは、かなりの御仁ですわ！一度お会いしてみたいですわあ……。

「そういえば、エムルねえ。なんか用事あつて来たんじゃ？」

「あ！カシラに呼ばれてたの忘れてたですわ！じゃあエヌハ！帰つて来たならおねーちゃん達にもあいさつしてくですわ！」

「じゃねー！」

さて、おとーちや……カシラのところに急ぐですわ！

◇◇◇

「おうエムルう……やつと来たかあ」

「お待たせして申し訳無いですわ」

兎御殿の奥、謁見の間でおとーちゃ・・・カシラの前に座りましたわ。

「噂あ聞いたか？」

「夜の帝王に認められた開拓者さんの事ですわ？」

「おう。知ってるんなら話は早え・・・。話を聞く限りでも、中々のヴォーパル魂よ・・・。俺あそいつに興味が湧いた。そこでだ。そいつをこの兎御殿に招待しようと思つてな」

「兎御殿にですわ!!」

驚いたアタシは、思わず聞き返しちやいましたわ。今まで、開拓者さんかどうか問わず人間さんが招待された事なんて初めてですわ。

「おうよ。で・・・エムルよ、おめえを呼んだのは他でもねえ。その開拓者の道案内を任せようと思つてな」

「アタシですわ!!」

おとーちゃんの言葉にさらに驚いたアタシは、思わず飛び上つちやいましたわ。まさ

か、例のお方に会う機会がこんなに早く来るとは思わなかったですわ!

「おうよ……。今あここに兎御殿に開拓者あ呼べるのはエムル。お前さんだけだからだつたが……。なんでえ中々興味深々じゃねえか」

「え、えへへへへ」

「どうだ?引き受けてくれるか?」

「任せて欲しいですわ!!」

おとーちゃんに与えられたおしごと!しかも、ヴォーパル魂溢れたお方の道案内ですわ!舞い上がったアタシは、二つ返事で引き受けましたわ。

◇◇◇

さて、その開拓者さんを案内するに当たって問題が一つありましたわ。アタシその開拓者さんの事なーんにも知らないですわ。

「そんな時は聞き込みですわ!」

アタシは、自慢のお耳を揺らしながら、ヴォーパルバニー達にその開拓者さんの事を聞きに回ったのですわ。

・証言1

「キュキュ。キュ。キュキュキュキュ。キュキュツ」

「なるほどですわ」

・証言2

「キューキュ! キュキュキュキュツ! キュキュー!」

「なるほどですわ」

・証言3

「キュキュキュキュ。キュキュツ」

「なるほどですわ!」

さて、皆のお話をまとめると・・・

おなまえは「サンラク」さん。今は、セカンディルにいるみたいですわ。そして、鳥

さんの被り物をしていて、装備は、二刀の短剣と腰巻きだけですわ。ふんふんふん。なるほどなるほど……。

「変態さんですわ？」